

2021 年度 自己点検・自己評価 【評価シート】

2022 年 6 月 16 日作成

5 : 達成している 4 : ほぼ達成している 3 : どちらともいえない 2 : 取り組みを検討中 1 : 改善が必要

(1) 教育の理念・目標		評価
1	(1) 1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	(1) 2 学校の特色は何か	5
3	(1) 3 学校の将来構想を抱いているか	4
4	(1) 4 理念に基づく教育が行われているか	4

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

日本のレベルの高い学校への進学を通じ、留学生への高等教育の提供に資するという
当校の理念・目的・育成人材像は設立時に定めており教職員間で共有されている。

当校は N5 から N1 まで幅広いレベルの受け入れをしており、専門、大学だけでなく大
学院をも目指す環境ができています。

当校の将来構想は、九州外国語学院グループの中核として、首都圏における拠点校の
位置を築き上げることである。

少しずつ進学実績も増えてきており、当校の進学指導の成功部分や今後の課題などが
見え始めてきた。新型コロナ禍での授業運営など新たな方法も試しことができた。今後は
今までの経験を踏まえ生かすべきところは生かし、新たに取り入れるところは躊躇なく
取り入れていくなど、更に積極的な授業改革を行う必要があると考えている。

(2) 学校運営		評価
5	(2) 1 運営方針は定められているか	3
6	(2) 2 事業計画は定められているか	2
7	(2) 3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	3
8	(2) 4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	(2) 5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
10	(2) 6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	2
11	(2) 7 危機管理体制は整備されているか	3
12	(2) 8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう 学校教育法に基づき整備されているか	5

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

運営方針は、学生数教職員数も少ないことから、固定化するのではなく敢えて試行錯
誤での運営としている。

事業計画は主に学生数を増やし、規模の拡大を図ることであるが、2021 年度は新型コ
ロナ禍の影響が大きかった。2022 年度は入国状況が良好となっているため今後期待。

運営組織や意思決定機能、人事や待遇、職場改善については、未だ少人数体制である

こともあり、特筆すべきような問題は生じていない。

情報システム化については、九州外国語学院グループで以前より開発・運用している独自システム（にほんごくん）を持ち込んで運用しており大きな問題はない。

学校運営についての客観評価（第三者評価等）については今後の検討課題である。

危機管理体制については、九州外国語学院グループでの支援により、基本的な体制は構築している。しかし危機管理体制の制度化、明文化という点については昨年に続き改善中である。施設・設備は、学校教育法の基準に準じた告示基準に合致している。施設のにも新しく問題は見当たらない。

（３）財務

評価

- | | | |
|--------|--------------------------|---|
| 13（３）１ | 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか | 3 |
| 14（３）２ | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3 |
| 15（３）３ | 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 16（３）４ | 財務情報公開の体制整備はできているか | 2 |

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

適正校認定を得、在留資格認定証明書の必要書類緩和により学生応募数増が見込んでいたが、新型コロナ禍のため、応募が困難なうえ、入国制限が続いているため入学辞退も続出し、学生数が伸びず、学校経営を圧迫している。こうした中、雇用調整助成金、持続化給付金、提携金融機関による緊急融資などを使い財務的には何とか持ち堪えている状況である。2022年度は入国状況が良好となってきているので今後に期待。

予算・収支計画については、設置会社において策定・運用しており、またグループ全体として連結運用しているため、有効性・妥当性の評価は難しく、どちらとも言えない。

会計監査については、上場企業等に求められる基準には至らないまでも、関与税理士による年間ならびに半期での決算処理時点での監査に関与していただいている。

財務情報公開については、今後の検討課題である。

（４）法令遵守

評価

- | | | |
|--------|----------------------------|---|
| 17（４）１ | 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 18（４）２ | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 19（４）３ | 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 3 |
| 20（４）４ | 自己点検・自己評価結果を公開しているか | 4 |
| 21（４）５ | 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか | 4 |

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

法令、設置基準等の遵守に努め、入国管理局にも尋ねながら適正な運営に努めている。

学校内 LAN はファイヤーウォールの機器を設置しサーバーデータの外部への流出を防ぐとともに、教職員の就任にあたっては個人情報保護に関する誓約書の提出を義務付けている。

自己点検・自己評価の問題点の改善については、2022年度に入り、新型コロナ禍の影響も少なくなっているため、今後具体的な対策案を模索し、実行していく予定であ

る。

入国管理局をはじめ関係省庁への定期報告、随時報告については、遅延なき報告に努めている。

(5) 教職員

評価

22 (5) 1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか 4

23 (5) 2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか 4

24 (5) 3 教職員評価を行っているか 3

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

当校のレベルの高い大学院・大学・専門学校への進学を通じ、高等教育の提供に資するという教育理念を採用の際にも説明し、理解・納得した上で、採用に至っている。採用後の質向上に向けて、新人教師対象に期初に合同研修を行い、その後は教案チェック・授業見学を行っている。

教職員評価に関しては、年度末に振り返りを行ってはいないものの、システム的に取り入れているわけではないので、今後実施していく予定である。

また、昨年に続きオンライン授業や在宅勤務が増えたことにより、教職員も直接会う機会が減り、連絡が密にできていたとは言い難い状況であった。今後は対面授業が増え、連携を取りながら円滑な運営ができるようにしていきたい。

(6) 地域貢献・社会貢献

評価

25 (6) 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 2

26 (6) 2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか 2

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

社会貢献、学生のボランティア活動への奨励や支援については、新型コロナ禍の影響が少なくなってきた 2022 年度の計画が課題である。

(7) 教育活動

評価

27 (7) 1 カリキュラムは体系的に編成されているか 5

28 (7) 2 授業評価の実施・評価体制はあるか 4

29 (7) 3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた
教員を確保しているか 4

30 (7) 4 成績評価は適切に行われているか 5

31 (7) 5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか 5

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

当校の理念に基づいたカリキュラム・指導体制を福岡校のものを元に作成し、運営している。半期終了毎に進学実績や資格取得実績と照らし合わせ、授業の評価を行っているが、学生数が少ないため比較検討がまだ十分にできていない。

教員においては、十分な知識を備えた者を採用しているが、経験が浅い者が多いため、その後のフォローが必要である。成績は 4 技能を中間期末試験・授業態度・提出物などから相

対的評価をし、算出している。

(8) 学生支援		評価
32 (8) 1	進学・進路指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
33 (8) 2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
34 (8) 3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4
35 (8) 4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
36 (8) 5	保護者と適切に連携しているか	2
37 (8) 6	卒業生への支援体制はあるか	2

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

進学・進路指導は、当校が最も重視すべきものとして位置付け取り組んでいる。
また学生相談に対する体制も、学生数が少人数であるということもあり、和やかな雰囲気
気で支援できている。
保護者への連絡については、問題がある学生への指導の場面で連絡を取り合うことで
考えているが、現在のところ、そこまでの事案は発生していない。卒業生への支援活動に
についても今後の検討課題である。

(9) 在留管理と生活指導		評価
38 (9) 1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
39 (9) 2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
40 (9) 3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4
41 (9) 4	常に最新の学生情報を把握しているか	2

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

入国・在留関係の管理・指導、支援については、入国・入学直後の諸手続き、期間更新
時の取次ぎをはじめ、事務局にて対応している。
日本社会を理解するための支援については、教務部門における授業内外での取り組み
と生活指導活動サイドからのアプローチの両面から取り組んでいる。日本の法律とルー
ルを守ることの重要性については、日本在留にあたり最重要事項として指導に努めてい
る。
いずれも、現段階では全く問題ないと考えるが、学生数が増えた現状、体制の強化が
必要である。
学生情報の把握では、寮を離れた後の最新の住所、連絡先、同居人、アルバイト勤務先
の把握が胆と考え取り組んでいる。2022 年度に入り学生数が過去最大となっている現
状、正確に学生の情報をいかに把握するかが今後の課題である。

(10) 入学者の募集と受け入れ		評価
------------------	--	----

42 (10) 1	学生の受入方針は定められているか	4
43 (10) 2	学生募集活動は、適切に行われているか	4
44 (10) 3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
45 (10) 4	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
46 (10) 5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	1

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

当校は、全員直接面接を基本に募集しており、学生受入方針の下、適切な募集活動ならびに教育成果を始め留学費用面も含め正確な情報伝達による募集活動に努めている。

入学選考は、母国での学歴と成績、日本語能力をベースとして面接試験によって決定しているが、募集国により教育環境や事前日本語学習環境、経済状況などが異なることから、全ての募集国に対して同等の選考基準とはしていない。この点においては、どちらとも言えない。

適正校として認定されたため募集がよりしやすくなった。新型コロナ禍の影響が少なくなってきた現状、今後いかに募集の幅（国や地域）を広げられるかが課題である。

総括

新型コロナ禍においても、現在のところ学生・教職員とも一人の感染者も出さず、また、オンライン授業の体制も整え、対面授業とのバランスもとりながら、教育環境を保持し、学校運営を守ってきたことは、高く評価したい。

入国状況が良好となり学生数も増えている現状、学生の情報管理を徹底し、増員申請を目指しさらなる学生募集を狙うとともに、完全対面に切り替わった状況でも引き続き感染者を出さないよう十分注意をしていくことが課題である。